

アジアコースタル選手権（香港、ヴィクトリア）ITO 参加レポート

国際審判員（1782） 山崎 佳奈子（東京都）

はじめに

2018年11月23日（金）から11月25日（日）まで、香港ビクトリア港で行われたアジアコースタル（沿岸）選手権に国際審判員（ITO）参加させていただきましたので、以下ご報告いたします。

<大会概要>

日 時： 2018年11月23日（金）～11月25日（日）

コース： Victoria Harbor, Hong Kong

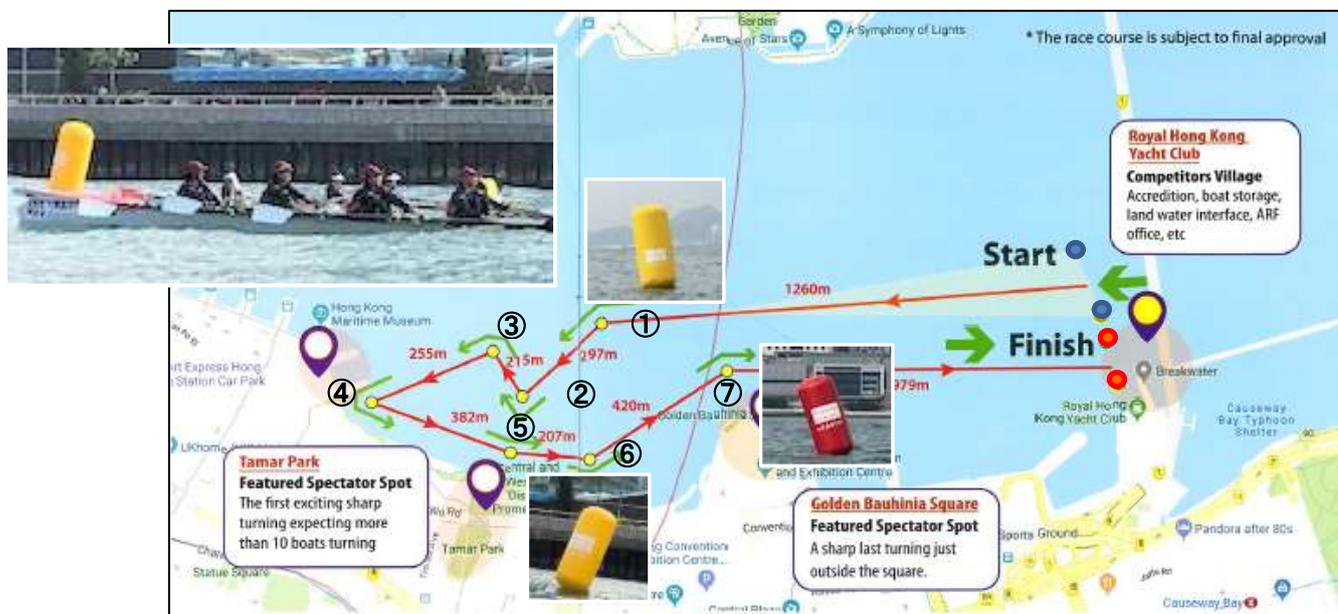
種 目： （女子）CW1X、CW2X、CW4X+
（男子）CM1X、CM2X、CM4X+

距 離： 4km 水上スタート、水上ゴール

使用艇： 配艇方式（艇、オール共 Swift Racing 社製、一部オールは持参）



今回のコースはコーズウェイ湾のヴィクトリア港にある「ロイヤル香港ヨットクラブ」に隣接する海岸線に設置されている。多くの漁船、ヨットが係留されており、毎週末にヨットの大会が行われている場所である。本コースは2019年世界コースタル選手権の開催予定地でもあり、本大会はそのリハーサル的な部分も占めている。



<レース方法>

最大12クルーが海上にある7つのターニングマーカー（ブイ）を曲がり、早さを競う。予選は2組まで（24クルーまで）。24クルー以上エントリーがあった場合は、選考レース（Qualification）を行い12クルーを選ぶ。

< 審判員 >

President of Jury : Kin Wah SIU (HKG)

Jury : 7 名

Hang Tim WONG Candy (HKG), Tze Yang Lo Elaina (HKG), Smita YADAV (IND), Takao SENDA (JPN)
Kanao YAMAZAKI (JPN), Young Sang HWANG (KOR), Roozaimy OMAR (SGP),

NTO : 12 名

< ITO 配置 >

- ① POJ:President of Jury (審判長)
- ② Control Commission (監視全体管理) 1 名 ※NTO2 名
- ③ Starter (発艇) 1 名 ※NTO1 名
- ④ Judge at the Start (線審) 1 名 ※NTO1 名
- ⑤ Race Umpire (主審) 1 名
- ⑥ Turning Mark Umpire 1 (ターニングマーク審判 1) 1 名
- ⑦ Turning Mark Umpire 2 (ターニングマーク審判 2) 1 名
- ⑧ Finish Judge (判定) 1 名 ※NTO1 名
- ⑨ Turning Mark 3 Umpire (ターニングマーク 3 審判) ※NTO1 名
- ⑩ Marshals ※NTO6 名



Racing Boat



Turning Point Boat

< 大会前 >

11 月初旬に ARF より大会 ITO としての参加確認とパスポート情報の提示依頼が届く。本大会は当初スベアの 2 番目だったので、要請が来ることは無いと思っていたが、まさかの 3 週間前の要請だったので驚いた。アジアではあり得ることらしい。

その後、VISA 取得の連絡と VISA Letter が届く。

大会 1 週間前に ITO 宛の Information Letter が届く。内容は以下の通り

- * 空港からの移動方法 (Airport Express のチケット PDF 付き)
- * パスポート番号の提供依頼
- * 宿泊予定ホテルについて
- * 大会中のミーティング、セレモニー、Jury イベント日程
- * コンタクトパーソンの名前と連絡先



Express Ticket

Visa Letter

また、POJ の Dr. SIU から、当日の連絡は主に「[WhatsApp](#)」を使用するため、携帯電話の番号を教えてくださいと連絡があり、大会前に既に ITO メンバーの WhatsApp グループが作成された。

香港は交通の便が良く、空港から香港駅までは Airport Express で 20 分。香港駅からホテルまではシャトルバスが 20 分間隔で運行されている。そのため空港での送迎は無く、みな自力でホテルにチェックインした。

当初の大会日程は選考レース (足切り) を含めた 3 日間だったが、どの種目もエントリーが 24 クルー以下だ

ったため選考レースは無く、レース日程は2日間となった。

<11月22日(木)大会2日前>

「First Jury Meeting」国際審判の顔合わせミーティング

<11月23日(金)大会1日前>

「Captain's Meeting and Draw」通常レースのチームマネージャーミーティングのようなものでコースタルでは各クルーから1名ずつミーティングに参加する。

「Update Seminar」Coastal Rowingについてのセミナー(千田 ARF 審判委員長)

「Opening Ceremony」開会式、バグパイプの演奏とともに各国クルーが入場

<11月24日(土)大会1日目>

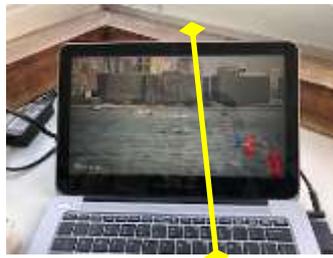
午前: Judge at the Start (山崎)、Finish Judge (千田)

午後: Race Umpire (千田)、Turning Mark Umpire 1 (山崎)

Judge at the Start

コースタルは通常のレースと違い、艇揃えが無い。クルーはスタートブイの間にレース時間までに並ぶ。スタートブイは動くので、線審はブイではなくブイより少し先のスタートライン上のスリットを見てフォルススタートを判断する。

クルーには事前の Captain's Meeting で、フォルススタートについて2分のタイムペナルティを課すことを説明していたので、大きくブイより出るクルーはいなかった。



スターターボート

フォルススタートは認識しえる数艇によるフォルススタート (Individual False Start)、と認識しえない多数のフォルススタート (Multiple False Start) がある。Individual の場合は該当クルーに2分のタイムペナルティが加算され、Multiple の場合は再スタートとなる。また、他艇を妨害したクルーには60秒のタイムペナルティが課される。3分前にフーターが3回鳴らされ、2分前に2回、1分前に1回鳴らされ、発艇員は赤旗を掲げる。

フーターが長く鳴り、赤旗が下ろされるとスタートの合図となる。

Turning Mark Umpire 1

本コースにはターニングポイント (TP) が合計7か所あり、TP1 と TP6、TP7 は NTO が監視し、コースが狭くなる TP2 と TP5 (Turning Mark Umpire 1)、TP3 と TP4 (Turning Mark Umpire 2) は ITO が監視する。

海上コースのためレーンはなく、クルーが一斉にターニングポイントを目指すため、オールとの接触や、他艇との接触など起こりえる水上格闘技のような一面を持つレースである。そのため艇が損傷した、クルーが怪我をした、といったレベルでなければ「Severe Collision (重大な衝突)」とは認められない。この日はオールの小競り合いがある程度で



深刻なものは無かった。

ゴムボートに乗りながら双眼鏡でボート番号を確認するため、船酔いになる審判がいた。

Finish Judge

今回のタイム計時は Swift 社のシステムを使用。各ターニングポイントは事前にクルーに GPS 位置が知らされる。全てのターニングポイントを回ったかどうか、Turning Mark Umpire から判定に無線が入る。

全てを回れば「All Boats Passed」と連絡され、回っていなかったクルーがいれば「Boat No.〇〇、missed Turning Point 〇」と伝えられ、そのクルーは DNF (Did Not Finish) となり次のラウンドには進めない。

ただし、クルー数の少ない CW1X、CW2X、CW4X+、CW4M+の最初のレースである Preliminary Race (予備レース、予選ではない) に関しては、**全クルー**が翌日の決勝に進むことができる。

この日は CM1X の予選で 2 クルーがある TP ブイを回らなかったため、DNF となり翌日の決勝に進めなかった。

<11月25日(土)大会2日目>

午前：Control Commission (千田)、Race Umpire (山崎)

午後：Turning Mark Umpire 2 (千田)、Control Commission (山崎)

Race Umpire

いわゆる主審であるが、まるでバナナボートのようにゴムボートで海上を滑走するため、振り落とされないように手すりとロープをつかんでいた。午前中の CW4X+でレース終了後白旗を揚げた後に、香港クルーから接触・妨害をされたこと異議があった。香港クルーの言い分を聞き、怪我やボートの損傷が無いことを確認し、クルーには POJ の元に行くよう促し、POJ に電話で事情を説明した。

午前のレース終了後に Race Umpire (山崎) と、接触があった TP3 にいた Turning Mark Umpire 2 (Candy) が POJ に呼ばれ、それぞれ状況を説明した。結果、接触はあったが妨害したものではなく、ラフコンディションによるものと判断し、異議は却下された。

Control Commission

本コースの C.C. (監視) は舵手計量、出艇監視、帰艇監視業務があり、1つの棧橋から出入りするため非常に混雑していた。

舵手計量

FISA ルールが変わり、舵手は性別不問で体重は 55kg 以上となった。そのため CM4X+の COX は 10 クルー中 3 クルーが女性だった。DW は石や鋼板でできており、100g 以下の重量の調整ができないというアバウトな方法であった。

今回 CM4X+で PHI01 (フィリピン) と HKG05 (香港) のクルーが計量時間 (2 時間前から 1 時間前) 内に計量に現れなかったため失格となった。



出艇監視

クルーは 90 分前から Swift テントにてクルー名と ARF のステッカーをもらい、あらかじめ Boat No. が貼ってある横

Boat No.

Crew ID





排水キャップ



救命具 (COX は着用)



牽引ロープ



ステッカー

出艇監視では、クルーチェック (リストバンドでクルーを識別する) し、上記項目を確認する。レース毎に全てのクルーが出艇したら、Starterに「All boats on the water」と連絡する。

帰艇監視では、クルーの体調、全部のクルーが戻ってきたか、デッドウェイトを持っているかを確認する。

CW2X でボートの故障(台湾・TPE01)、リガーの不調(香港・HKG04)があり、一度出艇したクルーが戻ってきた。HKG04 はねじの締め直し、ワッシャー交換で済んだが、TPE01 はボートを 208 から 212 に交換した。そのため、Starter にボートを交換した旨を連絡したが、ITO と NTO の無線チャンネルが違うため、この情報が一部の NTO に伝わっていなかった。こちらのミスではないが、各部署内での ITO と NTO の連携も大切だと感じた。

海上を後ろ向きに漕いでブイを目指すため、クルーはコースを見失いやすい。

そのため、自分の手にコースと回るブイの方向をマジックで書いている選手がいた。大胆だが確実な方法だと思った。



午後の監視で、帰艇した THA01 (タイ) のクルーから、HKG02(香港)のクルーに衝突され、艇が破損したとの Objection (異議) があった。ボートを確認したところ、かなりの傷で「Severe Collision」だと判断し、状況をクルーに確認後 POJ に連絡した。のちに当該クルーから書面による Protest (抗議) が提出されたため、POJ は急遽「BOJ : Board of Jury (不服審査委員会)」を招集した。FISA では大会 1 日ごとに審判長から指名

される 2 人の審判と POJ によって BOJ が構成される。この日は C.C.の山崎と Finish の SmitaYADAV が選ばれた。

このレースは M4X+の決勝レースで、順位は以下の通り。そして 1 位の HKG01 が TP7 を回っていなかったことが判明した。これにより、Protest の結果によって HKG02 にタイムペナルティ 60 秒が加算されるかどうかが決まり、メダルを獲れるか獲れないかの瀬戸際になっていることがわかった。

順位	現 在	Protest 承認の場合	Protest 却下の場合
1	HKG01 (TP7 通過ミスで DNF)	TPE01 (17:34.2)	TPE01 (17:34.2)
2	TPE01	THA01 (17:54.1)	THA01 (17:54.1)
3	THA01	HKG03 (18:01.1)	HKG02 (17:59.6)
4	HKG02 (THA01 に衝突)	HKG02 (17:59.6+60 秒)	HKG03 (18:01.1)
5	HKG03	HKG06 (19:02.1)	HKG06 (19:02.1)

まず POJ が Race Umpire、Turning Mark Umpire、C.C. などから必要な情報を収集し、その後 3 名で協議をした。と同時に今回の Protest は 100€ (相当として 100HK\$) の供託金が拠出されておらず、POJ は OC に、タイクルーに対し今回の書面が正式な Protest (抗議) であるか、Complain (苦情) であるかの確認を依頼した。

協議の結果、BOJ は艇の損傷具合から衝突は「Severe Collision」であったが、ラフコンディションの中で意図的に相手を妨害し衝突したのではなく「not intentional (故意ではない)」と判断した。

そのため、「Collision Acceptable (衝突は不慮のもの)」として Protest は却下する結論とした。

その後、タイクルーから書面は供託金のない単なる Complain (苦情) であるとの申し出があり、そのまま BOJ は解散した。

その結果、THA01 の銀メダル、HKG02 の銅メダルが確定した。

おわりに

今回初めての ITO 参加がコースタル選手権という特殊なレースであったが、非常にエキサイティングなレースだった。レーンも無く最大 12 クルーが一斉にターニングポイントを目指すため、小艇はさほどではないが、C4X+は COX が大声で怒鳴り、相手クルーをけん制していた。オールのぶつかり合いはあちこちで起こる。4km の長い距離を競うため、早いクルーと遅いクルーでは 5 分ほどの差が出るため、最後のクルーがフィニッシュした時点では先のクルーはもう帰艇棧橋に向かっており、白旗を見ることはない。

そのため、苦情のほとんどは C.C. にいる ITO が受け付けることになる。しかしながら当然監視にいる ITO は状況を見ていないため、POJ による各部署の ITO、NTO からの情報収集が重要になってくる。

世界でもまだ普及段階のコースタル選手権は、ここアジアではほとんどの審判が未経験だった。あらゆるケースが起こりえるコースタル選手権なので、学ぶことも多い。

今回日本からも 4 チーム 5 クルーが参加していた。異国で日本人に出会うことは嬉しい。審判同士でも審判と選手でも、それは同じ事であり、この機会に日本クルーと交流が持てたことを嬉しく思う。

将来日本でも是非コースタルローイングを普及させてほしいと願う。



また、ITO と NTO の懇親会では、今年 12 月で FISA を引退する Mike Tanner 氏のサプライズパーティーが香港の審判を中心に企画された。手作りのケーキと皆からのメッセージはとても温かく、Tanner 氏がいかにかこの香港で慕われ、尊敬されているかがわかる素晴らしいサプライズだった。もちろん世界でも同じだろう。私は一国際審判として、この場に居合わせる事が出来たことを光栄に思う。



来年この香港で世界コースタル選手権が開催される。参加国も多くなり、間違いなくエキサイティングなレースとなることだろう。参加審判、OC メンバーの皆が今回の経験を参考に、来年の世界コースタル選手権の成功に向けて既に動き出している。素晴らしい大会になることを祈念する。

今回このような機会を与えてくださった JARA 関係各位、アジアボート連盟に深く感謝申し上げたい。



<ITO Photo> Smita, Takao, Dr. SIU (POJ), Elaina, Candy, Cathy, Roozaimy, HWANG



All ITOs and NTOs